福岡観世会 第一回

令和八年

能 小督（こごお） 森本 哲郎
替装束

狂言 佐渡狐（さどぎつね） 野村 万禄

能 百萬（ひゃくまん） 坂口 貴信
法楽之舞

撮影　前島吉裕

と　き／令和8年 5月16日（土） 午後1時始（12時開場）

ところ／大濠公園能楽堂

入場券／第一回・第二回綴り券▶ 指定席…18,000円・自由席…14,000円

単券（当日券）▶ 指定席…10,000円・自由席…8,000円

※綴り券をご購入の場合、第一回の指定席券・自由席券は第二回の自由席券として、
第二回の指定席券・自由席券は第一回の自由席券としてご利用いただけます。

発売所／大濠公園能楽堂 ☎092-715-2155

番組

仕舞
俊成忠度（キリ）　山口剛一郎
巻絹（クセ）　今村一夫
鞍馬天狗　井内政徳
網之段　今村宮子
須磨源氏　長宗敦子

能
地謡　小倉要二郎　今村嘉太郎　鷹尾維教　久田勘吉郎

小督

ツレ　菊本澄代
トモ　菊本美貴
森本哲郎
替装束　福王茂十郎
間　吉住講
後見　武田宗典　山本章弘
大鼓　白坂保行
小鼓　飯冨章宏
笛　相原一彦
地謡　井内政徳　杉浦悠一朗　今村哲朗　山口剛一郎　久保誠一郎　鷹尾章弘　多久島利之　今村一夫

〈休憩　十五分〉

狂言

佐渡狐

シテ　野村万禄
アド　杉山俊広
小アド　吉良博靖
後見　雪野洸太
地謡　杉浦悠一朗　鷹尾章弘　今村嘉伸　今村嘉太郎

仕舞
通小町　山本章弘
西行桜　観世清和
阿漕　多久島利之

〈休憩　十分〉

能

百萬

子方　坂口和貴
坂口貴信
法楽之舞　佐々木秀
福王茂十郎
喜多雅人
間　野村万禄
後見　武田宗典　坂口信男
大鼓　白坂信行
小鼓　幸正佳
大鼓　田中達
笛　森田光次
地謡　久田勘吉郎　今村哲朗　今村嘉太郎　久保誠一郎　今村一夫　観世三郎太　観世清和　鷹尾維教

終演予定午後五時頃

◆小督（こごお）　替装束（かえしょうぞく）

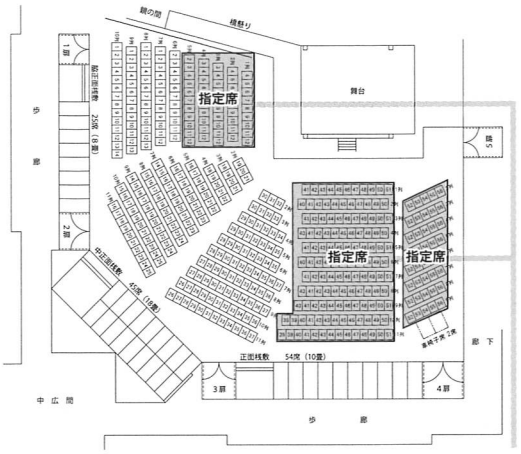
平家全盛の頃。高倉院は中宮となった清盛の娘徳子を畏れて身を隠した小督局への思慕止みがたく、小督宛の文を託し源仲国にその行方を捜すよう命じます。馬を駆け嵯峨野へと向かうその日は折しも中秋の名月、琴の名手である小督がきっと奏じるに違いないと思う仲国は、小さな庵にたどり着きました。心を込めた双方のやり取りがあり、やがて別れの場面となります。仲国が馬上の「駒之段」、中国の故事を引きつつ帝への愛を綴るクセ、別れの場面にての男舞など見どころ多い曲です。「替装束」の小書により直垂から単狩衣と指貫となります。男舞は貴人や大切な人の前で舞いますが、「恐之舞（かしこみのまい）」となり、貴人小督の前で足拍子を踏まない、背を向けないように舞うなど、随所に趣き深い演出がございます。

◆佐渡狐（さどぎつね）

佐渡のお百姓と越後のお百姓が上頭（うえとう　荘園の領主）に年貢を納めに行く途中、佐渡に狐が居るか否かで論争になり、それぞれの刀を賭け、奏者（役人）にその判定を頼み、領主の館へ向かいます。実は狐を見たことがなかった佐渡の者は奏者に賄賂を渡すなどし。賭けに勝つのですが、最後にどんでん返しが待ち受けています。事実といたしましては。江戸時代、佐渡島に狸はいても狐はいなかったようです。

◆百萬（ひゃくまん）　法楽之舞（ほうらくのまい）

吉野の男が奈良西大寺辺り拾った子を連れて京都嵯峨野へやって来ると、、釈迦堂では大念仏の最中でした。そこへ夫と死別した上に子まで見失ったために物狂いとなった女が現れます。念仏の拍子が悪いと自分で音頭を取って舞い、仏前に進んで我が子に会わせて欲しいと祈る女の姿は、悲劇的な暗さというより春の浮き立つような明るい風情を感じるような、芸づくし面白づくしの能でありながら、我が子との再会の場面では思わず感動の涙がこぼれるようなドラマチックな展開です。
法楽とは本来、仏に手向けるわざの意です。「法楽之舞」の小書がつくと、中之舞を笹で舞い、芸尽くしの要素が強調された演出となります。



指定席（その他は桟敷席を含めて自由席となります。）

第二回　予告

【とき】令和九年一月二十三日（土）
午後一時始（十二時開場）
【ところ】大濠公園能楽堂

能　鉢木（はちのき）　観世清和
狂言　昆布売（こぶうり）　野村万禄
能　善界（ぜがい）　白頭　今村嘉太郎

主催／福岡観世会